

令和2年 2学期始業式式辞

おはようございます。いよいよ二学期がスタートします。始まりにあたり、次のことを確認したいと思います。

まずは、確認その1、1945年8月6日・9日・15日の意味するものについて

これは、昨年もお話ししましたね。2・3年生は、しっかり答えられますか？大間高校の生徒が一人残らず、答えられるように、何度でも確認したいと思います。

これらは、広島と長崎に原爆が投下された日と終戦記念日です。今年は戦後75年目の夏でした。さて、皆さんはこの日に何を考えましたか？

戦争を象徴するこれらの日と私たちの今がつながっていることを想像してみましよう。それは、日本という国に生まれ育った私たちの責務でもあります。

確認その2 一学期の始業式、終業式でお話したことを思い出してください。

まずは、毎回お話ししている三つのこと。

一つ目は、「なぜ、学ぶのか？について、自分の答えを見つけること」

二つ目は、「一日一日を大切に、小さいことの積み重ねを毎日継続すること」

三つめは、「自分の命を大切にする。」そのため「自分の善さを見つけると同時に、他人の善さを認め、その人の命を自分と同じように大切すること」

この三つのことは、常にお問い合わせしていますね。

そして、大間GPに掲げた5つの目標（自己肯定力・実行する力・考え抜く力・協働する力・郷土を愛する力）を常に意識して行動することでした。

さて、二学期の始まりにあたり、この、いつもお話ししていることについて、元プロテニス選手の松岡修造さんのお言葉を借りてお話ししたいと思います。

それは、「次に叩く一回で、その壁は破られるかもしれない」という言葉です。

松岡 修造さんは、元プロテニス選手で現在は、スポーツキャスターや、タレント、スポーツ解説などを行っています。皆さんご存知ですか？オリンピックでは日本選手の応援団のような振る舞いで解説やコメント、インタビューなどを行っているので、面白タレントとして皆さんには知られているのかもしれませんがね。

しかし、松岡さんは、本当にすごい人なのです。1995年ウィンブルドン選手権では、日本人男子として62年振りにグランドスラムベスト8に進出し、翌96年には、ウィンブルドンのセンターコートで試合をした伝説の選手なのです。その彼が、ウィンブルドンで言ったのが、この

「次にたたく一回で、その壁は破られるかもしれない。」

です。彼はこの時、こう言ったのを記憶しています。「誰も僕がウィンブルドンのセンターコートに立つなんて信じなかったでしょう。でも、僕は信じてやってきました。いや僕だけは、信じてここまで来ました。だから、ここに今、立つことができたのです。」そして、彼の本（「人生を強く生きる83の言葉」）ではこのことに

ついて、こうも言っています。「本気で取り組んでも壁を破れない時ってあるよね。『100回叩けば、壁は破れる』と言われれば頑張ることができるけれど、回数がわからなければ、途中で諦めたくなる。次にたたく一回で壁は破られるかもしれないのに。多くの人は、その前に諦めてしまいます。人に未来はわかりません。だから、自分を信じて叩き続けるしかないのです。」また、最後をこう締めくくっています。「もっともよくないのは、人に言われて諦めることです。」と。

一学期の終業式では、人生のピースはそれが自分の夢の図面のどこのピースであるのかはわからないものだ、というお話をしましたが同じことなのです。

昨日の話になりますが、ビッグニュースが飛び込んできました。

それは、第104回インディアナポリス500マイルレース決勝で佐藤琢磨選手が二度目の優勝をしたことです。モータースポーツに興味がない方々にどう例えてお話ししたらよいのか分かりませんが(いわば、サッカーワールドカップで二度優勝するようなものと言ったらわかるでしょうか。)。日本のマシンで、日本人ドライバーが、世界最高峰のインディ500で優勝するとは。とにかくこれは、奇跡的な出来事なのです。

きっと、佐藤選手やそのチームスタッフ全員が、たくさんの夢のピースを捨てることなく人知れず大切にしてきた結果なのだろうなあと思います。

さて、3年生は、今、目前の就職、進学等の受験に向けて不安な日々を過ごしていると思います。でも、それを破るのはあなた自身でしかないのです。そして、どこにその「最後の壁」があるのかは誰にもわからないのです。

繰り返しになりますが、経験から人生の意味を見つけることと、目標に向かって努力を継続することは、とても難しいことなのです。自分を信じて、信じて、信じ切って継続していかなければならないのです。夏休み中にうまく継続できなかった生徒は、今からでもしっかりと計画を立て、継続する工夫をしてみてください。これは、一・二年生も同じです。

そして、「壁」にぶつかったときは、自分だけで、解決しようとしなくてください。ここには、皆さんにしっかりと寄り添うことができる先生方がいます。

ぜひ、先生方を頼り、素直にアドバイスを聞いて正しい努力をしてください。

さて、最後になりますが、コロナ禍における2学期の始まりです。新たな生活様式、学校生活におけるルールについて、再確認、準備して、行動することを望みます。皆さんが、心と体の両面で大きく成長する2学期になることを期待し、式辞とします。

令和2年8月25日

青森県立大間高等学校
校長 森田 勝博